令和3年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術一覧

計画期間（4年）：2020（令和2）年度～2023（令和5）年度

三重県総合博物館（MieMu）が、長期にめざす姿（ビジョン）の実現に向けて、当面4年間（＝計画期間）に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2，000mの深海から標高1，700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。
この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。
三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中間		戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標 アウトカム（成果）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価		戦術	達成度	アウトプット指標	アウトプット（実績）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価
（A）三重の魅力を知ってもらう	1	三重の魅力を明らかにするために、学芸員が館蔵資料の収集・整理・管理、調査研究を強化します(01)(A)（調査課） （資料の収集整理管理、調査研究）	3	専門家によるレビュー ・社会教育施設として博物館では、学芸員には館蔵資料や地域についての調査・研究と、学問的関心に基づく専門性の高い研究からなる知が求められる。これらの知的営為が、論文だけでなく、展示や講演等の活動と連関する所に研究機関とは一線を画する博物館の特徴がある。 ・こうした博物館の特性を踏まえると、研究成果公表数の目標を達成できたことは評価できるが、研究成果の対象が論文等活字化されたものに限られている、現在の目標設定にはやや偏りがある。博物館での活動が研究成果の対象となるか再検討する等、社会教育施設としての博物館にふさわしい評価の仕組みを作っていく必要があるのではないか。 ・研究成果の評価のあり方は専門分野ごとに大きく異なっており、館としての評価基準や目標策定には慎重な検討を要する。多様な専門分野の学芸員からなる総合博物館にふさわしい評価の仕組みを構築する必要があると考える。 ・データベースの閲覧回数は目標値を大きく上回っており評価できる。デジタル化による情報公開を、博物館におけるコレクション・マネジメントの基本に位置付ける等、今後も着実な公開数の拡大をはかられたい。 ・定期的な清掃と点検が実施されていることは評価できる。自然系収蔵庫内で文化財害虫が発見され食害が判明したことは、資料管理上重大な問題である。早期発見により、緊急対応が実現できたことは定期的な清掃・点検の導入の成果といえる。今後も資料の特性を踏まえつつ、確実な点検に継続的に注力する必要がある。	・研究成果公表数の目標（13回/年）は、34回と達成した。ただ、公表数が多い学芸員がいる一方で、公表できなかった学芸員が半数を占めた。 ・データベース閲覧回数は6,107回で、目標値を上回った。 ・今年度新たに寄贈を受けた資料に加え、過年度より整理を進めていた資料について、人文分野、自然分野で都合763件の登録を行い、データの修正についても実施できた。 ・4月から毎月収蔵庫の定期清掃・点検を実施し、学芸員が収蔵庫内の状態を認識できた。 ・6月、昨年度文化財害虫が発見され別置していた植物標本資料（コンテナ箱）の中から、文化財害虫が再度発見された。すぐに該当箇所の集中点検を行い、資料群を低温殺虫処置した。現在、経過観察を続けている。 ・自然系収蔵庫内では、現在も定期点検時に詳細な確認作業を行うとともに、フェロモントラップによる文化財害虫の追跡調査を継続して実施している。	・専門家レビューをふまえ「3」と評価した。 ・トピック展「学芸員の一押し資料」は、学芸員が総がかりで、館蔵品や日頃の研究成果を遺憾なく発揮した展示で、博物館らしい調査研究の成果発表のあり方として、おおいに評価できる。	1	三重の魅力を明らかにし、課題を解決するために、学芸員が活動の基盤となる資料収集および調査研究を行います（調査課）	4	当該年度研究成果公表数 （13回/年）	公表数：34回 1件：7名、2件：2名、3件：1名、4件：1名、6件：1名、10件：1名	・研究成果公表数の目標（13回/年）は、34回と達成したため「4．達成できた」と評価した。内容は、企画展開催等を目的としたもの、研究目的の調査等である。ただ、公表数が多い学芸員がいる一方で、公表できなかった学芸員が半数を占めている。 ・個々の学芸員が調査を行った日数も、大きな偏りがある。 ・調査が行えず公表数の少ない学芸員は、企画展開催等を目的として、基礎的な研究活動を継続していることも考えられることから、公表数の少ない学芸員に対して、次年度はその理由をとりまとめることで、学芸員間の情報共有を図り、組織的な研究体制を作っていく上で参考としたい。	・目標の公表数を大きく上回ったため「4」と評価した。 ・昨年度と同様に学芸員によって公表数の偏りが大きい点や、組織としての研究成果という視点からは課題が残った。 ・評価指標の研究成果公表数に含まれるものについては、「博物館の研究とは何か」ということをふまえて再考する余地がある。
							2	県民・利用者の館蔵資料の活用を促進するために、学芸員が整理を進め資料データベースを充実します。（調査課）	4	データベース閲覧回数 （5,000回/年）	データベース閲覧回数 6,107回	・データベース閲覧回数が、目標値を大きく上回る6,107回であったため「4．達成できた」と評価した。 ・今年度新たに寄贈を受けた資料に加え、過年度より整理を進めていた資料について、人文系資料で362件、自然系資料で401件、合わせて763件の登録を行い、データの修正についても適宜実施できた。 ・比較的大規模な資料群の幾つかが、現在も整理中。定期的な整理計画を作成して確実に進めていく必要性がある。	・目標の閲覧回数を達成したため「4」と評価した。 ・新規資料の登録も進み、閲覧回数も安定して推移している。 ・継続して資料整理を進めてほしい。
							3	貴重な県民財産（資料）を保全・継承するため、学芸員が収蔵・展示資料の定期点検や清掃を実施します（調査課）	2	毀損資料の発生件数 （0件）	毀損資料の発生件数　2件 （植物標本資料）	・今年度も4月から人文、自然それぞれ所管する収蔵庫の月頭の定期清掃を実施。定期清掃・点検を実施することで学芸個々人が収蔵庫内の状態を認識することができた。 ・6月、植物標本資料から文化財害虫が発見され、すぐに該当箇所の集中点検や低温殺虫処置を行った。現在、経過観察中である。自然系収蔵庫内では、定期点検時の詳細な確認作業やフェロモントラップによる文化財害虫の追跡調査を実施している。 ・今後は、毎月の定期点検時に範囲を定め、月ごとにその範囲を詳細に確認することを重ねていくことで、効率的かつ確実に点検を実施していく。	・虫害が2件発生したため、目標達成とはいえず、「2」と評価した。 ・点検を継続し被害を最小限に食い止めているといえる。 ・植物標本など、虫害を撲滅することは難しいが、昨年度も指摘したとおり、引き続き点検強化と予防（発生件数＝0に向け）に努めて欲しい。

令和3年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術一覧

計画期間（4年）：2020（令和2）年度～2023（令和5）年度

三重県総合博物館（MieMu）が、長期にめざす姿（ビジョン）の実現に向けて、当面4年間（＝計画期間）に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2，000mの深海から標高1，700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。
この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。
三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中間		戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標 アウトカム（成果）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価		戦術	達成度	アウトプット指標	アウトプット（実績）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価
（A（三重の魅力を知ってもらう	2	県民・利用者に三重の魅力を知っていただくために、学芸員が展示を充実します (01)(02)(03)(A) （展示課） （展示）	4	展示観覧者アンケートで「満足度」の割合 （70%）※4段階の4のみ 平均　72%（基本展示・企画展） ・基本展示：　満足75.2% （回答数314件） ・企画展「やっぱり石が好き！」：満足70.1% （回答数728件） ・企画展「寺院に伝わる戦国の残像」：満足70.0% （回答数180件）	・基本展示、企画展の来館者アンケートでの満足度平均は、72%で目標を達成した。 ・基本展示では「初めて」「2回」の来場者の満足度が75%強、それ以上の利用者の満足度も70%あり安定した満足度を得られた。企画展については70%と目標を達成できたのは、展示資料の質・量、三重にこだわったオリジナルの企画などの点が評価されたと考える。 ・楽しく観覧していただく工夫として「やっぱり石が好き！」では夏休み期間中に展示室内でワードラリーを実施し、多くの利用者があった。「寺院に伝わる戦国の残像」では北畠氏の山城を楽しく学ぶことができる特設コーナーを展示室内に設け、遠足シーズンの学校利用にも対応した。 ・企画展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を企画段階から講じたことで、感染状況の悪化や休館という状況のなかでも開催することができた。 ・展示内容の充実をはかるためにも中期的な展示計画の策定、職員の適切な割り振りや準備期間の確保等を検討していく必要がある。	・観覧者の満足度について、令和2年度外部評価の指摘を受けて変更した目標に対していずれの展示も達成したため「4」と評価した。 ・指標の分析に当たっては、来館回数だけではなく、年齢層や居住地など他の属性を含めた検証がより効果的と考える。	4	県民・利用者に三重の魅力を分かりやすく伝えるために、学芸員が基本展示を充実します（展示課）	4	基本展示観覧者数 （31,000人）	基本展示観覧者数:34,990人 （達成率112.9%） (1)トピック展「昔の道具を考える」 令和4年1月4日（火）～令和4年2月13日（日）（36日間） (2)トピック展「集結！学芸員の一押し資料」 令和4年1月29日（土）～令和4年4月6日（日）（58日間）	・目標値を達成する34,990人の展示観覧があったため「4．達成できた」と評価した。 ・常設展示に加えて、館蔵資料を中心としたトピック展を開催した。基本展示室から企画展示室へ入る動線を設定し、基本展示室の入場料で見学できるようにした。「昔の道具を考える」展では事前事後学習として来館した小学生や、展示された道具を使用した年代の人が多かったと考えられる。同じトピック展で学芸員が持つ情報や研究成果を紹介した「一押し」展でも幅広い世代から支持を得られ、リピーターが観覧者の7割を占めた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、令和2年度末にフィールドノートをタブレット版に変更した。操作も分かりやすいため令和3年度には多くの来館者に有効に活用された。基本展示室のコーナーごとに作成した動画は、令和3年度末現在20本を公開している。今後、オンライン利用のあり方も検討していく。 ・スポットガイドは館内別室で基本展示室の写真等を用いて紹介する講座方式で3回実施し、28名の参加者があった。	・魅力的なトピック展の併設、リピータの確保、動画の活用等にも努め、目標の観覧者数を獲得できたため「4」と評価した。 ・アンケート分析は必要だが、母数の少ない事例の結果は慎重に扱うべき。 ・目標値を変更したようだが、その場合には変更理由と決定プロセスを明確にすること。
							5	県民・利用者の幅広いニーズに応えるために、学芸員が多様なテーマによる企画展を開催します（展示課）	2	企画展示観覧者数 （32,000人） ※3回/年	企画展示観覧者数28,875人 （達成率90.2%） (1)第28回企画展「やっぱり石が好き！三重の岩石鉱物」 令和3年4月24日（土）～令和3年8月29日（日）（内3日間臨時休館　107日間） 展示観覧者数：17,419人 （75.7%） (2)第29回企画展「寺院に伝わる戦国の残像～北畠氏のいた時代～」 令和3年10月1日（金）～令和3年11月27日（土）（50日間） 展示観覧者数：10,920人 （128.5%） (3)移動展示「たんけん！はっけん！多気町」 令和4年2月11日（金・祝）～令和4年2月23日（水・祝）（11日間） 展示観覧者数：536人 （107.2%）	・展示内容を県内資料や館蔵資料を中心に構築する等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら2本の企画展と1本の移動展を実施できた。目標値32,000人のところ、観覧者数が28,875人であったため「2．どちらかというと達成できていない」とした。 ・「石展」では開催期間中にワークショップの中止や臨時休館となる等、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。観覧者数は目標値の75.7%であったが満足度は70.1%あり、新型コロナウイルス感染症禍の中でも十分に成り立った企画展であったと考えられる。夏季休業前に県内小学校にワードラリーの用紙を兼ねたチラシを配布し、観客数の増加につなげた。開催期間が長期の企画展であったため、展示に変化をもたらす展示替えを何度もおこなった。 ・「戦国展」では新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、会期が変更となり広報が十分にできなかったが目標値を達成した。 ・先を見通せない状況でも、試行錯誤しながら2本の企画展と1本の移動展示を実施できた経験を今後の企画展等に生かせられるようにしたい。	・「石」展示での開館日数が減ったことを考慮しても、企画展全体として目標の観覧者数に達しなかったため「2」とした。 ・新型コロナウイルス感染の影響を回避するため、「戦国の残像」の会期を変更して開館日数を確保し、目標人数を上回ったことは評価できる。

令和3年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術一覧　　計画期間（4年）：2020（令和2）年度～2023（令和5）年度

三重県総合博物館（MieMu）が、長期にめざす姿（ビジョン）の実現に向けて、当面４年間（＝計画期間）に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2，000mの深海から標高1，700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。
この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。
三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中間		戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標 アウトカム（成果）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価		戦術	達成度	アウトプット指標	アウトプット（実績）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価
（Ａ）三重の魅力を知ってもらう	3	自分たちがくらす地域への愛着を育むために、学芸員が県内各地域へのアウトリーチ活動を充実します (03)(A)（展示課） （アウトリーチ）	4	利用者（参加者）が「満足した」割合（75%）※4段階の4のみ 平均　79.5%（移動展示・学芸員講座） ・移動展示：　満足73.4% （回答数49件） ・学芸員講座：満足88.2% （回答数34件）	・移動展示および学芸員講座の満足度平均は79.5%で目標を達成していることから「4．達成できた」とした。 ・学芸員講座では、アンケートを講座主催者にとる体制を整え、高い満足度を得ていることが確認できた。 ・移動展示については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためイベントを全て中止したにもかかわらず、目標値に近い満足度を得ることができた。博物館の職員を配置し、観覧者対応を行ったことも高評価につながったと考えられる。 ・職員負担を考慮した移動展の適切な開催形態や運営の在り方を検討していく必要がある。	・利用者の満足度について、目標を達成したため「4」と評価した。 ・昨年度指摘した安全確保に努めるとともに、未実施であったアンケートについても改善（実施）が確認できた。	6	地域の魅力を発見し伝えるために、学芸員が県内当該地域での参加型調査を実施し、その成果を用いた移動展示を実施します（展示課）	4	開催市町の人口に対する利用者の割合 （3%切上：500人） ※2020多気町人口14,291人	移動展示 「たんけん！はっけん！多気町」 令和4年2月11日（金・祝）～令和4年2月23日（水・祝） （11日間） 展示観覧者数：536人 （達成率107.2%） 参加型調査への参加校数 町内小学校5校（計750人） 参加児童数：のべ837人	・まん延防止等重点措置が発令される中での移動展示（旧勢和村）であったため、全てのイベントや学校見学が中止となったが、536人の来館があり目標値を達成でき「4．達成できた」と評価した。町内小学校児童と実施した4つの地域調査結果については移動展示で発表するとともに、学芸員による結果解説動画を作成し教育委員会および各小学校に配布した。 ・旧多気町に対しては多気郷土資料館にて、移動展示終了後に地域調査のパネル展示を開催し（令和4年2月24日（木）～令和4年4月30日（土）まで）、332名の来場者があった。	・目標の観覧者数を達成したため「4」と評価した。 ・新型コロナウイルス感染症のために中止せざるを得なかった事業がある中で、当初計画になかったパネル展示を追加実施したり、小学校向けの動画配信を行うなど、地域の方へ伝えようという工夫は評価できる。
							7	地域の魅力を伝えるため、県内どこでも、学芸員が出張講座に出向きます（展示課）	4	利用者数（1,040人）	利用者数1,984人 ・37団体1,984人の利用を得た。	・今年度5月に、館HPで「学芸員講座のご案内」を掲載し、募集を行うとともに、県内各地域の小中学校校長会に参加し、説明を行った。その結果、37団体1,984人の利用があり目標値の1,040人を超えたため「4．達成できた」と評価した。 ・学校のICTインフラ整備が進んだため、まん延防止措置が発令された中でもオンラインで8校に学芸員講座を実施した。 ・学芸員講座の内容に関連した動画が、当館ホームページにアップロードされていることを学校や社会教育団体に周知するとともに、職員負担軽減のためにもオンライン講座を積極的に推進していきたい。	・目標の利用者数を達成したため「4」と評価した。 ・団体数・人数ともに昨年度実績を上回ったことや、新型コロナウイルス感染症に対応し、オンライン講座の要望にも応えた点は評価できる。

令和3年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術一覧

計画期間（4年）：2020（令和2）年度～2023（令和5）年度

三重県総合博物館（MieMu）が、長期にめざす姿（ビジョン）の実現に向けて、当面４年間（＝計画期間）に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2，000mの深海から標高1，700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。
この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。
三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中間		戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標 アウトカム（成果）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価		戦術	達成度	アウトプット指標	アウトプット（実績）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価
（B（館を利用してもらう	4	県民・利用者が参画・交流を通じた学びを促進するために、学芸員が多様な主体と連携します(02)(B)（展示課） （連携）	3↓2	利用者（連携者）が「満足した」割合（75%）※4段階の4のみ 平均　75% ・ミュージアムパートーナー （事務局1件）：　50% ・コーポレーションデー （主催者1件）：　0% ・研究機関の満足度 〇三重大学　数理・サイエンス館 （企画展「寺院に伝わる戦国の残像」）：100% 〇岐阜県博物館 （連携企画講演会「三重県を東西に走る中央構造線の活動史」）：100% 〇三重県埋蔵文化財センター （企画展「寺院に伝わる戦国の残像」）：100% 〇三重県埋蔵文化財センター （三重の実物図鑑 特集展示「土の中から『こんにちは!』」）：100%	・満足度平均が75%であり、目標の満足度75%を達成しているが、ミュージアムパートナーとの連携やコーポレーション・デーに関して満足度が低いことから「3．どちらかというと達成できた」とした。 ・ミュージアムパートナーについては、新型コロナウイルス感染症により活動が制約を受け、事業の数や種類も減少したが、戦術目標値を上回る1,711人の参加者があった。一方で事業参加者の固定化、満足度低下の要因と考えられる活動の停滞もある。会員数減少の危惧はあるものの、令和4年3月末時点において、165組294名で昨年度の同時期（156組285名）と比較して増加している。 ・活動の活性化と会員の満足度向上に必要なものを、博物館とミュージアムパートナーがともに考えていく機会を増やしていくことが重要である。 ・アンケートは事務局員のみに行ったが、会員の反応を広く知るためにも今後は事務局に対し全会員の満足度等を把握するよう働きかけていく必要がある。 ・コーポレーション・デーは、開催予定・計画していた5件のうち実施できたのは、昨年度に引き続き三重県環境保全事業団の1件（来館者778人）であった。満足度は「やや不満」であった。昨年度より来館者は倍増したものの、パネル展示のみの実施で活発な交流ができなかったことが低評価となった。 ・企画展で協力した研究機関は、研究成果や研究活動を見てもらう機会となり満足度も高く、観覧者数も目標値を上回る28,353人であった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、来館者との活動が制約されたり、規模縮小となったりする連携事業は、本来の目的を達成することは難しく満足度は低くなる。一方、企画展と連携した研究機関との満足度は高いことから、一定の来場者が見込まれる事業等での連携は、一つの活路になりうる。	・昨年度はデータの取得そのものができていなかったが、今年度はおもに利用グループ単位ではあったが取得できた。 ・連携の相手先を単位としたアンケート結果の合計6(5)件について、満足と回答した数が4(3)件であったことから、目標値には未達で「2」と評価した。 ・連携相手のより詳細な満足度を評価するために、アンケートの対象を拡大すべきではないか。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況をふまえ、ていねいな事前説明を行うなど、相手先とは綿密な情報共有を図り、連携に対する満足度を高めてほしい。	8	幅広い世代が交流しながら学びを深める場を作るために、ミュージアムパートナー（MP）と連携した調査、展示、体験等の事業を充実させます（展示課）	4	利用者数（1,700人）	利用者数（1,711人）	・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、8月中旬～9月末まで活動休止、会員からのニーズが高い野外行事も中止、10月からの再開後も講演会形式に活動が制限されるなか、目標値を達成したため「4．達成できた」と評価した。 ・会員へのサービス低下があったにもかかわらず、令和3年度の会員数が令和2年度比103%と増加したことは、ミュージアムパートナーの活動への期待の表れと考えられる。 ・学芸員の積極的な協力により10回のミニ講座を開催し、会員に対して充実した学習機会を提供した。Web併用のミニ講座を1回開催したが、オンライン視聴者が少なく、会員への普及・PRの必要性等、コロナ禍での取組への課題が明らかになった。	・目標の利用者数を達成したため「4」と評価した。 ・WEB経由で学芸員ミニ講座を開設したことも評価できる。 ・会員へのサービス（魅力向上）について、昨年度も課題として指摘したが積極的な改善は見受けられない。 ・会員全体へのアンケートを行うなど、活動に対する要望を広く聞き取り、改めてサービス向上に努めてほしい。
							9	地域で活躍する企業・団体の魅力発信と利用者との交流を支援するために、コーポレーション・デーを開催します（展示課）	2↓1	開催日の入館者数 （5,000人）	開催日の入館者数 （778人）	・新型コロナウィルス感染症のため、当館からの営業活動が制限され、年度当初に計画していた4団体は全て中止となった。そのような中、昨年度に引き続き三重県環境保全事業団にパネル展示中心のコーポレーション・デーを実施していただいた。入館者数は昨年度と比べると倍増している。（5件中1件実施） ・コーポレーション・デー開催団体、開催計画・予定団体とは、合計10回「実施の有無」等を含めた事前打合を行った。 ・コーポレーション・デーとしてはできなかったが、連携企画を実施した2団体とは、今後コーポレーション・デーにも参加していただけるよう連携を密にしていきたい。 ・新型コロナウイルス感染症が収まらない前提では、1週間程度のパネル展示を軸にして小・中規模の企業紹介や製品紹介をしていくような開催形態を提案していく必要がある。	・目標値を大きく下回ったと判断せざるを得ず、「1」と評価した。 ・相手方のある事業で、当方の意向のみで実施することができない事情もある中で、事業に対する実施方針や指標・目標値を見直す必要があるのではないか。 ・見直しに当たっては、理由と手続きを明確にすべきである。
							10	三重の魅力を様々な専門知識で広く発信し、人・もの・情報が行き交う場とするために、研究機関等と連携した事業を実施します（展示課）	4	利用者数（700人）	利用者数21,933人	・目標値を大きく上回る21,933人の利用者があったため「4．達成できた」と評価した。 ・第29回企画展「寺院に伝わる戦国の残像～北畠氏のいた時代～」のなかで、三重大学情報教育・研究機構、三重県埋蔵文化センターと連携して展示を作成し、利用者数は10,920人だった。 ・岐阜県博物館で開催した岐阜県博物館交流企画講演会「三重県を東西に走る中央構造線の活動史（10月23日）」を開催し、利用者数は40人だった。当館での交流企画講演会は、臨時休館のため中止となった。 ・三重県埋蔵文化財センターとの共催、三重の実物図鑑特集展示「土の中から『こんにちは！』」を令和4年2月26日から4月24日まで開催し、3月末日までの利用者数は10,973人だった。 ・アンケート結果からも連携に満足している（4／4団体）ことが分かるので、研究機関等とは資質・能力の向上につながるような高め合える連携を目指していきたい。	・指標とした事業の利用者数について、目標を大きく上回ったため「4」と評価した。 ・情報誌「みえんしす」（4回刊行）でも、タイムリーな情報提供ができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、昨年度も指摘したとおり、他の県立研究機関や大学、博物館など、連携相手が広がることを期待したい。

令和3年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術一覧　　計画期間（4年）：2020（令和2）年度～2023（令和5）年度

三重県総合博物館（MieMu）が、長期にめざす姿（ビジョン）の実現に向けて、当面4年間（＝計画期間）に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2，000mの深海から標高1，700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。
この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。
三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中間		戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標 アウトカム（成果）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価		戦術	達成度	アウトプット指標	アウトプット（実績）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価
（B）館を利用してもらう	5	博物館の情報を効果的に利用してもらうために、学芸員が知的資源やその活用方法をわかりやすく伝えます(02)(B)（経営課）（利活用）	2	利用者が「目的の情報が得られた」とした割合（75%） ※「はい」の割合 実績値：70%	・県政eモニター制度を利用してアンケートを実施し「知りたい情報の見つけやすさについて」の回答結果が、目標値を達成できなかったため「2．どちらかというと達成できていない」と評価した。 ・再設定した指標（MieMu@ほーむのwebページアクセス数）の目標値は達成することができた。（実績値：5,626回） ・MieMu@ほーむ内に、オンラインで楽しめるクイズコンテンツや刊行物ページへのリンクを新設した。 ・『調べ方』を学ぶことをテーマにした事業は、中止になった事業もあるが昨年度（3事業4回）より多い7事業14回に増やすことができ、目標の160人を大幅に上回る267人の参加があった。オンラインを活用した講座、ワイヤレスイヤホンを導入した観察会等、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施した。 ・社会生活が次第に元に戻りつつある中で、オンラインコンテンツをより多様な方に利用していただけるよう検討を進めていく必要がある。	・利用者によるアンケート結果が目標（75%以上）を下回ったため「2」と評価した。 ・昨年度も「2」の評価で改善を求めたが、2年続けて未達成で、しかも昨年度よりも低下（74%→70%）していることから、原因の詳細を分析し改善する必要がある。	11	県民が広汎かつ手軽に情報を得られるように、学芸員がHPや館の情報誌での情報提供を充実します（経営課）	4	MieMU@ホームのwebページアクセス数 （4,800回）	5,626回	・目標値を大きく上回り達成できたため「4．達成できた」と評価した。 ・週1回を目安に、定期的に更新することができた。 ・トピック展「昔の道具を考える」に合わせて動画を作成した。展示会場でもQRコードから動画解説を視聴できるようにする等、展覧会とWebを組み合わせた新たな取組を行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策だけでなく、より多様な方に利用していただく機会をつくる手段のひとつとして、オンライン講座についても検討を進める。	・目標を上回るアクセス数を得ることができ、「4」と評価した。
							12	県民・利用者に自分で学ぶ楽しさを伝えるために、学芸員が同定会やフィールドワークなど「調べ方」を学ぶことをテーマにした事業を開催します（展示課）	4	利用者数（160人）	267人	・『調べ方』を学ぶことをテーマにした事業は、昨年度より多い10事業18回を計画した。新型コロナウイルス感染症のため3事業4回が中止となったが、目標値を大幅に上回る267人の参加があり「4．達成できた」とした。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、参加定員を減らしたり、参加者が密集状態になったりしないようにオンラインを活用した講座やワイヤレスイヤホンを導入した観察会等を実施した。	・予定した事業が中止になるケースもある中で、目標を上回る利用者を獲得できたため「4」と評価した。 ・参加者定員を減らしたり、オンラインを活用するなどの感染症対策を確実に実施する中で、昨年度実績（73人）を上回ったことも大いに評価できる。

令和3年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術一覧

計画期間（4年）：2020（令和2）年度～2023（令和5）年度

三重県総合博物館（MieMu）が、長期にめざす姿（ビジョン）の実現に向けて、当面4年間（＝計画期間）に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2，000mの深海から標高1，700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。
この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。
三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

中間		戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標 アウトカム（成果）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価		戦術	達成度	アウトプット指標	アウトプット（実績）	評価結果 内部評価	評価結果 外部評価
（B）館を利用してもらう	6	次世代の育成のために、学芸員が子どもたちの学習機会の充実を図ります (02)(B)（展示課） （学習交流・連携）	4	19才以下が「博物館での活動（学習）が楽しい」と感じた割合（75%）※4段階の4のみ 実績値：82% 47件のイベントアンケートのうち、年齢について回答があった19歳以下のものから分析。イベントの満足度を尋ねる設問（不満、やや不満、やや満足、満足）を、「活動（学習）が楽しかったもの」として分析。 回答者数　1098件のうち 19歳以下の回答者数　401件 「満足（=楽しい）」回答数　328件（82%）	・子どもが参加したワークショップや講座など47件の事業において、19歳以下のアンケートで、「博物館での活動（学習）が楽しい」と感じた割合は82%であった。令和2年度と比べ実績数、評価指標ともに向上し、目標を達成しているので評価は「4．達成できた」とした。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、学習機会に制限を設けるなか実施した、五感を使って体感できる事業の利用者は634人であった。戦術目標値は下回ったが、その分解説の時間を設ける等きめ細かな対応ができたことで内容の充実につながり、満足度について高い評価を得た。 ・こども体験展示室は、緊急事態宣言にともなう休館やまん延防止措置などの期間を除き、開室日や定員を限定する等感染予防対策を行った上で開室し、3,381人の利用があった。戦術目標値を大きく下回ったが、厳しい感染状況のなかで最善を尽くした数字と考える。 ・県内高校9校、2,714人の生徒に対して探究的な活動を支援し、戦術目標値を達成することができた。また、各校が活動成果を発表する機会（「みえむ未来創生フォーラム2021『高等学校での地域に関わる学習』生徒成果物発表会」）を実施することができた。なお、本事業は、学校が行う学習を支援するものであることから、成果指標の「博物館での活動（学習）が楽しい」には該当しないものであり、評価指標の対象外とした。	・19歳以下を対象としたアンケートでの結果が目標（75%）を上回ったため「4」と評価した。 ・昨年度（77%）を上回ったことも評価できる。	13	子どもたちに学習の楽しさを伝えるために、こども体験展示室を充実させます（展示課）	2↓1	こども体験展示室利用者数（60,000人）	こども体験展示室利用者数（3,381人）	・令和2年度末から開室を再開したが、目標値に達しなかった。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮すると、こども体験展示室の特殊性から「2．どちらかというと達成できていない」と評価した。 ・他館の子ども向け展示室の運営状況や、日本博物館協会ガイドライン、みえこどもの城での感染防止対策等を参照した上で、当面は土日のみに利用を限定し、入室人数の制限等運営体制を改め、可能な限り利用いただけるよう工夫した。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じた運用方針を検討していく必要がある。	・コロナ禍での休館や開館時でも人数制限を行った上での結果であることは考慮すべきであるが、こうした状況の中であえて掲げた目標を下回ったと言わざるを得ず、「1」と評価した。 ・新型コロナウイルス感染症の状況に合わせた開室状況の実績が蓄積できたことから、評価による改善を志向するためにも、目標値は再考すべきである。
							14	子どもたちに学習の楽しさを伝えるために、学芸員が五感を使って体感できる様々な事業を実施します（展示課）	2	利用者数（1,200人）	利用者数634 人	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の面から、計画自体を見送った事業や中止となった事業もあった。利用者は634人と目標値に達しなかったため「2．どちらかというと達成できていない」とした。 ・参加者が対面にならないように座席を設置したり、利用する器具を参加者間で共有しないように個別のものを準備したりする等、できる限りの努力をして実施した。事業への満足度も高い。	・中止となった事業の参加予定者を差し引いても目標（1,200人→927人）に達しないため「2」と評価した。 ・必要に応じて、適正な目標値に改めることも検討すべきではないか。
							15	子どもたちが能動的な学びを体験できるように、学芸員が学校と連携して課題探究型学習を支援します（展示課）	4	支援した生徒数（1,500人）	2,714人	・9校の高等学校から依頼を受けて、総合的な学習の時間等にT．A．（ティーチングアシスタント）として参加し、各校の探究的な活動を博物館の持つ能力を生かして目標値を上回る2,714人に支援をし「4．達成できた」と評価した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、県立学校では8月末から9月まで休校措置をとり、調査・研究を主とするこの活動を縮小して実施してきたが、各生徒の活動を支援することで各校が発表会まで実施できた。 ・「みえむ未来創成フォーラム2021『高等学校での地域に関わる学習』生徒成果物発表会」において、支援している学校の教育課程内で実施している「地域に関わる学習」紹介や優秀な成果物を発表できた。 ・多くの学校と、各校の多くの活動班を支援することを共有化するため各校に活動報告書を提出し、活動システムや生徒の活動に課題を見出すことができるようにした。	・学校が8月末から9月まで休校措置がとられる中で、目標を大幅に上回る参加者を獲得できたため「4」と評価した。 ・加えて、発表会まで仕上げたことは評価に値する。
	7	経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します （経営） **【副館長】**	3↓2	各事業のコスト・パフォーマンスの改善（定性） （副館長レビュー）	・定期的に全体会を実施し、進捗状況について職員全員で共有している。明らかになった7つの課題について、改善に向けて取り組んでいる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、各事業において、一定の改善が進んでいる。 ・令和2年度はアンケートを通じてデータを取得していなかった指標について、令和3年度はアンケートの実施及び回収に努め、評価の前提となるデータを取得した。 ・コロナ禍においても、利用者の増加や満足度向上に努める必要がある。事業の実施にあたって、新型コロナウイルス感染症の拡大または収束状況に柔軟に対応できるよう取り組んでいくことが必要である。	・戦術16でいくつかの取組みは見られるが、令和2年度外部評価での指摘事項のいくつかが改善されていないため、評価制度の活用（改善）という視点から、「2」と評価した。 ・昨年度の指摘に対して、戦術7・12ではコロナ禍での安全確保が継続でき、戦略3・4では評価の前提が整った（改善）。 ・反面、戦術1・3・8・10及び戦略5については、改善の途上であったり、その取り組みの姿が見えないもの、数値が悪化したものも散見される。 今後は、前年度評価の指摘にも留意しつつ、改善に努めてほしい。	16	事業を日常的に確認し改善するために、定期的に進捗管理を行います（経営課）	3	確認によって判明した課題の件数 （7件）	確認によって判明した課題の件数 （7件）	・4半期毎に進捗管理のための全体会を開催し、進捗状況について全員で共有することができた。 ・実施していくための課題を明らかにすることができ、改善策や取り組み方針について協議することができたが、新型コロナウィルス感染症拡大の影響もあり、改善が進んでいない取り組みがみられた。今後も定期的に進捗状況を共有することで、各職員のPDCAサイクルの意識の向上を図っていく必要がある。	・業務の改善に向けた定期的な進捗管理については、一定数（7件）の課題を明らかにし、改善に取り組めたため「3」と評価した。 ・一方、抽出した課題と昨年度の評価概要の指摘が、一部を除き、一致していない点が散見された。

【達成度】（※4段階評価：1.達成できていない、2.どちらかというと達成できていない、3.どちらかというと達成できた、4．達成できた）

◯戦略外の評価項目

・評価士による評価制度に対するレポート

○用語

・戦略目標：　計画期間中、重点的に目的を持って取り組むこと

・戦術　　：　戦略目標達成のために、具体的に取り組むこと

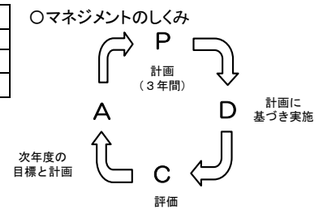
○評価体制

・内部評価：内部評価委員会（中世古・瀧川・星野・小掠・中村・田村）

・外部評価：博物館協議会評価部会

評価結果を報告、意見聴取

→博物館協議会

評価者の階層	①自己点検評価　→　②内部評価　→　③外部評価
評価者	館担当課・者　内部評価委員会　→　博物館協議会評価部会
評価作業内容	・指標データ整理・評価結果（価値判断）
	評価結果（価値判断）・改善視点

○マネジメントのしくみ